

星合操の  
秘密の図書館

星合操



エロスの降誕

昭和二十二年

長い間続いた  
悪夢のような  
戦いで

この世の中は  
何もかも  
変わってしまいました



麻梨亜!!



いいえ  
本当よ

横浜の  
榊原様という方に  
お嫁入りすることが  
決まったの



伯父に  
きみが結婚すると  
聞かされた

まさか…  
そんなことは  
嘘だろう!?



麻梨亜!!

どうして!?

直彦さんも  
ご存知のように  
新憲法の施行で  
華族制度は廃止され

私達華族には  
なんの地位も特権も  
なくなってしまうわ



使用人は去り  
……  
家屋敷を  
維持していく  
収入もないわ



ああ…  
それは  
僕の家も同じだ

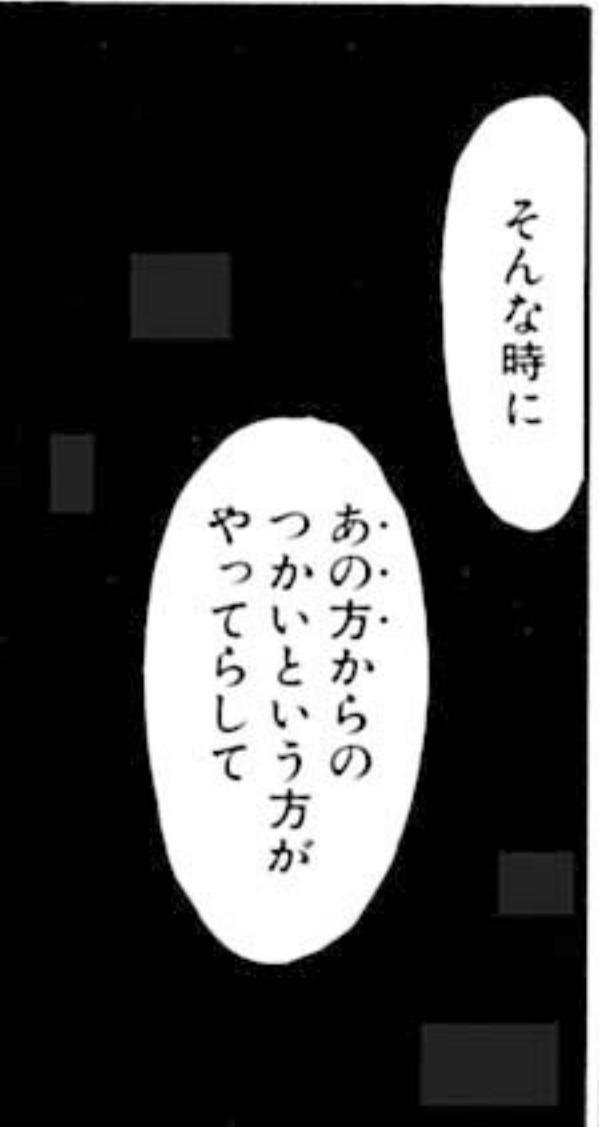
宝石類は  
競売に出し…  
家を手放すのも  
時間の問題だろう



…ええ  
私の家も…

父と二人  
路頭に迷うことも  
もういたしかた  
ないことと

あきらめて  
いたのよ



そんな時に

あの方からの  
つかいという方が  
やってらして

私共の主人は  
横浜で織維会社を  
経営する  
榑原憲宗と  
申しますが

この度  
お嬢様をぜひ  
奥方様に  
お迎えしたく

私がつかいとして  
まいりました



ご婚姻が  
実現しました  
晩には

さしでがましい  
ようですが  
お宅様の今後は  
私共のほうで  
見させて  
頂きたいと  
存じます



何不自由ない  
お暮らしを  
約束させて  
頂きます



しかし  
麻梨亜！

父は  
大喜びなの  
願ってもない  
縁談だと

それでは  
きみは  
お金で買われるような  
ものじゃないか



直彦さん…

そんなことを  
言わないで…

榊原様は  
私を見初めて  
くださったと  
おっしゃるの

私は…  
この縁談に  
したがうことが  
一番良いことだと  
思ったのよ

だが  
麻梨亜

僕のこととは!?

きみは  
僕との約束を  
忘れてしまったのか!?

直彦さん

いいえ…

いいえ  
忘れてないわ

麻梨亜!  
それなら  
なぜ!

私は  
父を  
悲しませたくないの

母が亡くなったあと  
男手一つで  
育ててくれた父に…

私ができる  
親孝行は  
これしかないのよ



ごめんなさい  
直彦さん

私のことは  
忘れてください



麻梨亜!!



さようなら  
直彦さん

麻梨亜!



幼い頃  
いとこの直彦とかわした  
約束

大人になったら  
きつと  
結婚しよう  
と…

淡い  
夢い夢に  
別れを告げて



あれは  
幸せだった時代の  
夢物語

私は  
見知らぬ人のもとへ  
嫁ぎます



迎えの車に  
揺られながら



この日のために  
父が用意してくれた  
真紅の打ち掛けに  
身を包み

顔も見たことのない  
人のもとへ  
嫁ぐことに

もちろん…  
一抹の不安は  
ありました

私は  
一つの決心を  
していました

けれど





ようこそ  
いらっしやいました

私は  
奥さまの  
身のまわりのお世話を  
させて頂く  
須美と申します

戦後の混乱期の  
わずかな間に  
財を成したという  
その方の屋敷は

それは  
みごとなものでした







儀式のためには  
そのような重い着物は  
お邪魔でございます



…は？  
婚礼の儀式が  
まだ…



こちらへ  
どうぞ

そのお着物を  
お召しかえに  
なってください



さ  
どうぞこれに  
お召しかえを

ご主人様は  
さきほどより  
寢室で  
奥様を  
お待ちかねです



そうそう  
奥様